

# 【ねがいましては】

第101号

平成10年1月28日

共和珠算学習塾

「夢に向けて」

昨年の11月、私は私用で富山県の武生（たけふ）というところを訪問しました。初めての日本海側ということもあり内心楽しみにしておりました。

その地で生きる方々の姿、景色、気候、どれも新鮮なものでした。どこに宿泊するのも決めないまま出かけたわけですが、結局駅前にあるビジネスホテルに泊まることにしました。その日の夕方、ひとりで食事に出かけたわけですが、ちょうど同じビルにある居酒屋さんに入りました。ひとりで居酒屋など、これもまた初めてなわけで、新鮮な気持ちと不安な気持ちが入り混じったなんとも言いようのない気持ちのままカウンターに座りました。

早速3品ほど注文をし、ビールも併せて注文、ひとりで乾杯と相成りました。実はその日、その土地の方に大変なお土産をいただいております、「早めに召し上がってください」と言われていました。で、ひらめいたのです。実は頂き物はカニとアマエビだったので、「そうか、ここで出してもらえないものか・・・。」わがままもいいところですね。普通ネタはその店が仕入れることが基本であり、まさか客が持ってきたものなどさばいて出すなど・・・。

恐る恐る尋ねました。「いいですよ。少しお時間をいただけますか。」

なんという嬉しいひとこと・・・。恐縮至極の中で私はお礼の言いっぱなし・・・。

引き受けてくれた板前さんなのですが、東京・大阪など大都市で板前の修業をしながら今に至っているとのこと。今いるこの店へは出張で来られているとのことでした。何でもお給料が結構よく、ここ数年お金をためながら行く末はご自分の店を持ちたいとのことでした。表情からは若者特有のすがすがしさを感じました。ひとの魅力ってこのようなものなのだな。こういう今を精一杯に生きてるなって感じられる人を目の前にすると、自分も知らずのうちに生き生きとして来てしまう。なんだろう。エネルギーが伝わってくるのです。

そうか、自分も子どもたちを目の前にしてこんなエネルギーを注いであげることができているのかな。自分がとても小さく感じられる瞬間でした。

「がんばって下さいねー」ここからエールを贈ります。ニコニコと明るく振る舞う彼の姿は、無性に私のところを揺さぶり返していました。

楽しいひと時を過ごした後、お勘定の際、「わがまま言ってお願いしたのですから、手間代をとってくださいね」と頼みましたが、「いえいえ結構です。本当に結構なんです。」と、丁重に断られました。私は普段あまり使ったことのない名刺を取り出し、「あなたが独り立ちをされ、お店を開店されるときには、ぜひご一報くださいね。」と言葉を残して帰りました。

富山県、武生のとある居酒屋での心温まる「ひと」との出会いに、私はお腹も心もホクホクにして翌日帰路につきました。

〇〇さん、必ずご自分のお店を開いてくださいね。どうもありがとうございました。これが「旅」というものなのですね。景色、味覚、いろいろあるけれど、旅のだいご味は「ひと」との出会いなのでしょうね。

日々汗をにじませながら、目の前の「ひと」に笑顔を注ぐと邁進される姿、これが「はたらく」ということなのでしょうね。

私が今している仕事、はたして子どもたちは心をほっこりしてくれているのかな。

たぶん修行がまだまだ足りないんだなと、つくづく思い知らされる旅になりました。